

まったく怪しげな哲学入門

学力丹 七生りこわりの学交 交々 入呆 斎

何がどう憂鬱なのか

新しい本「予習展開のよる国語科授業づくり」を出版してから、何か力が抜けている。なぜなのか良く分からないけれど、ぎらぎらするものが抜けている。まあ、頑張ってきたんだから、ちよつとは休んだらと言ってくれる人もいるけれど、自分としてはちよつと深刻だと思う。

出版記念の会もとっても楽しかったし、その後の「高の原、久保まる一日講座」も楽しかった。新風堂の主人が腹を抱えて笑ってくれてし、感心もしてくれた。いつも主人と一緒に僕の話聞いてくれる九十三歳になる主人の御母堂も「久保先生の話は何か哲学的で・・・」と涙ぐんで聞いてくれた。彼女は今も、御歳でも新聞を読み、読書し、未来の日本を憂う矍鑠とした現役の平和活動家だ。「今、日本は危ない。戦争前の状況と思想的傾向、人々の心もちが似て

きていると・・・」

東大寺学園の高校の国語の先生も、「先生の話はこれで三回目です」と言っていて聞きに来てくださった。アカデミックな国語の研究をしておられる高校の先生の前で話すのは気が引けるけれど、それはそれでまた面白いものだ。

そういうと「出版記念の会」の時に、高等専門学校の教授が来ておられた。その教授は「予習」について論文を書いておられるらしく、ポンカラキンコンカンとPCを叩いたら「予習」でヒットしたので、小学校の予習に興味が湧いてきましたとのことだった。それはそれで愉快なことだ。

何がどう憂鬱なのか・・・。強大な悪が手をふって闊歩している陰で小さな善意が踏みじられ、怯えている。自分は何と論を展開するための思想を深めなければならぬのに、空回りしてばかりいる。

貧困と格差と

教育と労働と愛と社会と国家と

2月に森川先生の授業を見に行った。関西学院の付属小学校で宝塚歌劇のそばにあって塵一つない瀟洒な学校だった。教室は2倍の広さで美しかった。僕の知っている砂埃のする学校とは雲泥の差だった。パンフレットには授業料だけで百三十万何がしと書いてあった。

国民年金が654969円、一人のお年寄りがその金額で一年間暮らさなければならぬ日本で子どもの学費に余分にこれだけ出せる家ってどんなだろうと思った。それ以来「貧困・格差と教育・労働・愛と社会と国家と」が頭から離れない。

貧困と格差が英語を通して

巨大な荒れを引き起こす

英語をどう教えるのか。どこまで教えるのかと大騒ぎの今日このごろですが、アルファベットすらまともに書けないで中学校にいく子がかかりいるのも事実です。それは無理ありません。ローマ字の学習は3年生で10月に5時間という配当時間しか公式にはないのでですから・・・しかもローマ

字にはないアルファベットともあるし、大文字、小文字両方完璧に書ける子はかなり少ないのです。英語塾に行っていない子には。

子どもたちの将来を考えると親の収入格差が「英語での格差」となって子どもたちに暗い影を投げかけるのではないかと辛い思いがします。3年生でうる覚えなローマ字に喝をいれ「英語学習へのはなむけ」として、ローマ字の再学習で輝くクラスを」と取り組んではいかがでしょう。

ローマ字はいつ教えるのがいいのか

私は全校上げてローマ字に取り組んだという珍しい経験があります。そこで得た教訓はローマ字学習は発達の点から言うならば「遅ければ遅いほど早い」ということです。3年生では半年かかるころを、4年生では1か月、5年生では2週間、6年生ともなると賢い子ならば、集中すれば3日間でマスターできるのです。当然1〜2年生ならば膨大な時間が必要です。

では6年生でということになるのですが、それではその2年間に子どもたちがそのことで傷つくことが多いので、4年生のこの時期にクラス挙げてローマ字の再学習

を英語学習の序章として取り組み、英語・ローマ字学習でキラキラ輝くクラスを創ってあげたいとおもうのです。

ローマ字を1か月で完全制覇するスケジュールに従えばなんなく長作文まで全員マスターさせることができ、ローマ字で新聞づくりも十分できます。

アルファベットの速書きで英語にも自信を

再学習ではローマ字ノートの4本線は使いません。普通の罫線を使い、英語のスタートとして、ゼロからの出発だと演出して始めるのです。

この学習方法はこんな感じです。教師が黒板にアルファベットを唱えながら、「A a, B b, C c」と大文字、小文字両方を書いていき、子どもたちが同じように唱えながら、写していきます。この再学習で書き順や形を確実に全員マスターさせます。このとき、大切なことは、大きな声で全員に唱えさせることです。この鉄則が曖昧になると、クラスの中でローマ字が苦手だった子が曖昧に唱えてしまい、クラスを挙げて取り組む輝きがなくなってしまうのです。

全員が書いたら、大きな声で何回も練習させ、宿題に出して5回くらい書かせます。2日目はアルファベットの速書きテストでフィーバーさせます。「これからアルファベットの速書きテストです。百ます計算と同じようにタイムを計ります。「いいですか」「ハイイ」こんな感じでやると子どもたちはノリノリになってきます。

3日目は「アルファベットアットランダムテスト」です。教師がランダムにアルファベットを言っただけ子どもたちは大文字、小文字を書いて減点法で友だち同士で採点します。このような3日間を過ごすことで、子どもたちは確実にアルファベットをマスターし、英語学習へのはなむけ、ローマ字マスターへの確実な一歩を踏み出すことになるのです。

長文読解、長文作文への取り組みは長文の視写を徹底することによって、4年生は難なくこなし、ローマ字新聞まで進んでいきます。この実践は「1か月集中実践で子どもを変えろ」にありますのでDVDも参考に取り組んでください。きっと夏休み前の取り組みとしてよいと思います。